

地域に根付いた消防団の活動

し
よ
う
ぼ
う
の
広
場

の
広
場

火災、救急、
救助は・・・

119

消防団は、本業を持ちながら「自分たちの町は自分たちで守る！」という精神に基づき、地域の安全と安心を守るために活躍している方々の集まりです。

また、その参加は自らの意志に基づく参加、すなわち「ボランティア」としての性格も併せ持っています。



消防団啓発ポスター

◆もしもの時は、町を守るリーダーとして
我がさつま町には現在約500人の消防団員が、本業を持ちながらも地域の安全、安心のために活躍しています。消防団員の大きな役割は、突発的に起こる災害から地域住民を守ることがあげられます。火災発生時の消火活動ばかりではなく、地震や風水害などの自然災害における救助・救出活動、避難誘導など、「その地域を熟知」している地元

の消防団員でなければ対応できない緊急事態があります。それゆえ、どの家にもどんな家族が住んでいるのかなどを把握している地元消防団の存在は、地域住民の精神的な支えとなっているのです。

◆平常時は予防警防活動を中心に
消防団は平常時・非常時を問わずその地域に密着し、地域の防災に貢献しています。平常時においても、その活動は重要であり、防災点検や風水害危険時の特別警戒、火災予防などの広報活動など幅広い役割を担っています。

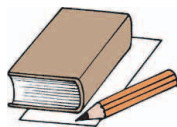


潜水訓練を行う消防団と消防署の潜水隊員

消防団がいざというときに消防署や自主防災組織などの連携のもと、マンパワーを活かして活動できるのも、普段からこうした地道な活動を行うことにより、住民から防災のプロとしての信頼を得ていけばこそなのです。

講習会のご案内

防火管理者 資格取得講習会開催



消防署では、防火管理者資格取得講習会を下記のとおり開催します。

防火管理者のいない事業所などは、ぜひ受講してください。

開催予定日

9月15日(木)・16日(金)

2日間とも受講する必要があります。

受講定員 30名

お問い合わせ先

さつま町消防本部 予防係

☎52-0119

消防一口メモ

ご存じですか

「着衣泳」

水の事故による犠牲者の7/8割は、魚採りや水遊び中など服を着た状態(着衣状態)で陸から水中に転落し溺れています。

服や靴、身の回りの荷物(例えばバックなど)は水に浮こうとする性質があるため、もし着衣状態で水に落ちても慌てず「浮いて」呼吸を確保し助けを待ちましょう。

着衣泳は、自分の命を自分で助ける「助かる水難救助法」です。

6月の救急・火災情報



救急

◆出動件数 69件
◆運んだ人 70人
◆内訳
急病 29件 28人
交通事故 11件 13人
その他 29件 29人

火災

◆出動件数 1件
◆内訳
車 両 1件